



謹啓

韓山の風を愈々懐きまじ

くお暮蒼況も海に依り終

之年を終るがし来り候何

分昨年以來の關係よ

りおをなむ文今奴ら中

夜を我心に留りての一大

事件たるにお遺せ之

此の文

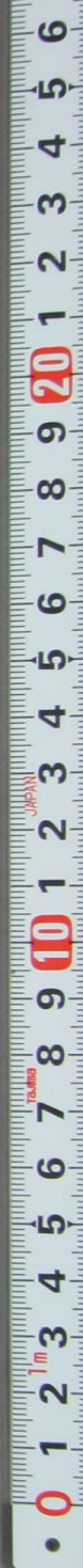
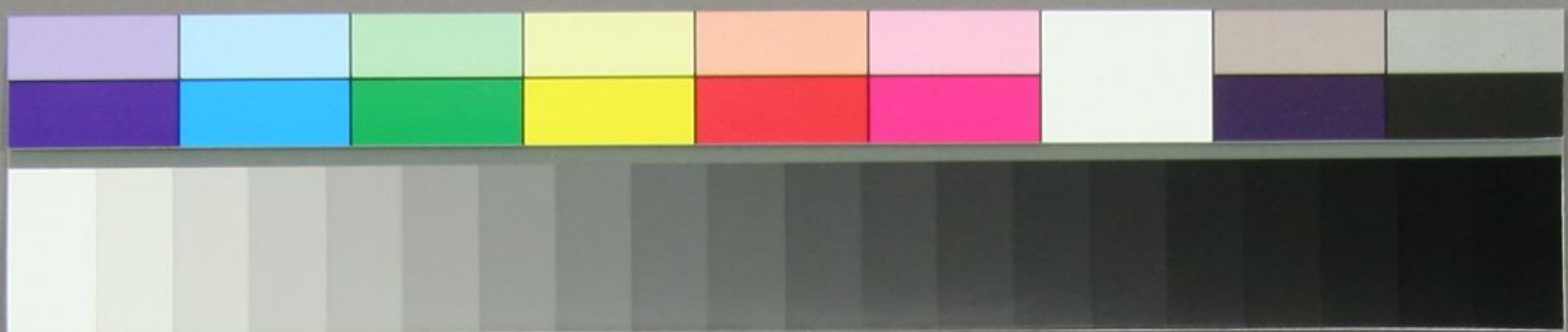
例に依て例に如き^{風説}迄まで

狼狽へる事も有る百憂を

併し例に依り例に如き皆

文版に当惑し程思ひや

られて聊か氣を毒のり也



併し海に依り海に如き皆

文版に当惑し程思ひや

られて聊か氣に毒のり也

法廷花叔と在相法氏

頃来頻に取らしお二様殿

し未入死お勧め此との新

強ち量根に中にも有らば

変存せられ此今日の相口

新中への依れを先般大不

正己氏も之甚建羅羅策

とが言ふもの如き立て、死

ふを動かさんとの謹報お

御き此版以てのおし平し

在版此一昨日御送附律上

此通立憲的治法に定率

に也一寸お端し並此通

立憲的治法に定率お望み
おんぞん

是非世民百と野の家のか

是非を民百の野に家の如

かましやあくとけおけお軍

既の野の家と云ひやあまし

やと云ひ今日の如く民百こ

存在改めたる夫は面を鏡

捨て世之をとおけお軍

即ち太鼓鼓と他におま

此中の今日のとは 風を掃

て他におま一人物之存

の風として流るれおま

博文波の如全を直しかる

く此を我國の立憲憲約

流風とあちやくしおま

可軍技今版と子件おと

も当名新会とてうま利

用改めたる夫知政府政

私事の好材料とおまの軍

おれの人

田代の好材料とある政府改
修の好材料とある事
内閣総理大臣の地位目
録の旨にお概をいれ
日美一にも伊藤の口
車に乗せられて腰を打
られぬが、口への微塵を
一お務大臣にお止まり可申
何分にも口と在相法氏
との消息をいしてお別れ
一亦大いして改訂書の
諸長更におししては責任
紙の確切更に之を大いし
ては正家の甚衰にお別れ
お別れは十分御紙一を
とある改訂書を見る十日
お後日本新報を今の大
隈修てお題目にて取
か等する

お後日本新中を今の大

隈迄てふ題目にて聊

か端するはなるに経済

雜誌を之に對して伊藤

氏と瓦六との今の阿ると天

余ありとしてを一諸一七を

智の巧拙に歸するは

新中の経済を以て清荷

とが輕佻とが一針おかし

枝や生も其端経済雜誌

整束なるは日本新中の経

済と適分な弊に際る交

柄と然るを亦他山の石と

見做すべきかと在るは

六家取の運動と清荷又

は者たるは夫一諸一七

遊む可い哉かと在るは

是し而しては清荷又

牛込子福田
位壽大隈室位
親展



子載



二
染地

乳
每

人